

ひがしこぎさ
東小笹遺跡(範囲確認)

所在地 豊田市越戸町東小笹・西小笹
(北緯35度06分46秒 東経137度11分00秒)

調査理由 国道153号線豊田北バイパス

調査期間 平成27年5月11日～平成27年5月15日

調査面積 30㎡

担当者 早野浩二



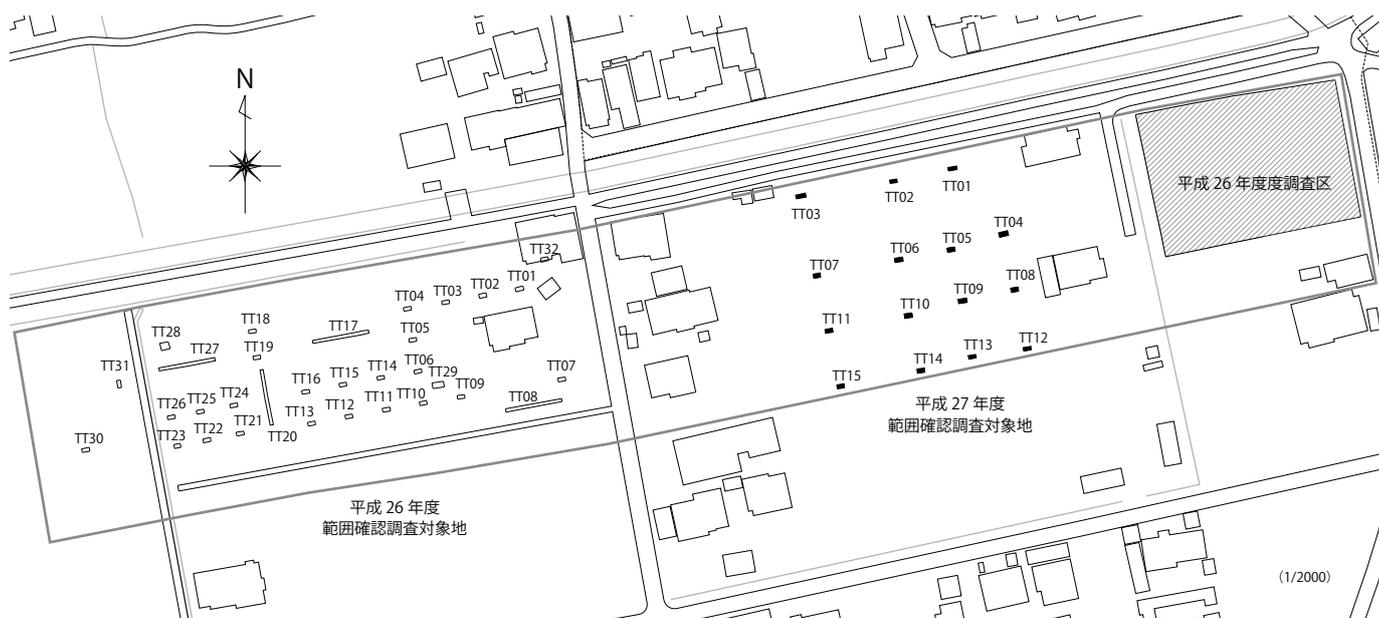
調査地点(1/2.5万「豊田北部」)

調査の経過 発掘調査は国道153号線豊田北バイパス建設に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局名四国道事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。

今回の範囲確認調査は、平成26年度に本発掘調査と範囲確認調査を実施した中間の事業予定地を対象として実施した。対象地は過去、平成24年に愛知県教育委員会が試掘調査を実施し、遺跡の範囲内であることが報告されているが、検出された土坑状の遺構の時期は不明で、出土遺物もごく少なかったことから、本発掘調査実施前に、遺跡の範囲や残存状況、性格にかかる情報をより多く収集することが求められていた。

東小笹遺跡は矢作川右岸の低位段丘(越戸面)東端に立地し、遺跡には真言宗宝隆院境内が含まれていた可能性も想定されている。遺跡周辺には段丘南端に小笹古墳、上位の段丘(碧海面)に宇津木A遺跡、宇津木B遺跡、宇津木古墳が分布する。

調査の結果 今回の範囲確認調査の対象とした地区は、表土・客土直下に地山が露呈することが多く、明確な包含層、遺構は確認されなかった。隣接する耕作地には古代、中世、近世以降の土器・陶磁器が散布するが、範囲確認調査によって出土する遺物は表土(耕作土)に伴うごく少量の小片のみで、遺跡の存在を積極的に示すものではない。遺跡周辺はすでに大規模な圃場整備が行われたとのことから、遺跡のかなりの部分は剝され、滅失している可能性が高いと推察される。(早野浩二)



東小笹遺跡試掘坑配置図(1:2,500)